

東久留米市市制施行**50**周年記念事業

東久留米市総合教育会議

2020年11月7日(土)

8050問題とは

— 親同居未婚者の未来 —

山田昌弘 ・中央大学文学部・教授
(家族社会学)

0. はじめに 自己紹介

山田昌弘 1957年生まれ、62歳

家族社会学・研究者、東京大学大学院修了、
東京学芸大学教授を経て、2008年より中央大学教授
パラサイトシングル、格差社会、婚活 の名付け親

研究領域 家族(結婚、恋愛) ジェンダー、若者を 「お金
」と「愛情」の領域から研究している

読売新聞人生案内回答者 10年続けている

* 東京都社会福祉審議会委員(2014年一)

* 内閣府男女共同参画会議専門委員(2004年一)

近著に『日本で少子化対策はなぜ失敗したか』(光文社新書)

0. はじめに 8050問題とは、

8050問題

80歳前後の親と50歳前後の独身の子どもが同居する世帯
(「ひきこもり」の人もいれば、アルバイト、正社員の人もいる
—中身は多様)

- * 現在は、なんとか人並みの生活ができている
- * 将来、特に親が亡くなった後どうなるか不安

私は、東京都社会福祉審議会でも、指摘続けてきた

多くの議員が身近な人から相談を受けている

- * 生活できる手立て
- * 孤立しない手立て

この双方が必要になっている

0. はじめに 社会学の精神

* ユリウス・カエサル(古代ローマの偉大な指導者)

「人は自分の見たいものしか見ない」

* 社会学の精神 「現実をありのままにみる」
(偏見や常識を脇に置いて、現実を記述し、分析し、原因を見つけ、
未来を予測する)

= 社会学—人間が見たくもないと思っている社会の側面ことを見せてしまう学問

8050問題を考えるに当たって、誰もその将来の姿 みたくない

でも、あえて、「見なくてはならない」時期に来ている

0. はじめに 社会学の精神

* 今日、伝えたいこと

今の(若者—中年)をめぐる家族や雇用の状況を「ありのまま」にみるとどうなるか

8050問題の背景に潜む現代社会のあり方

8050問題はどのように出現したか

では、どのような対策をとればよいのか

社会的にできること、個人的にできること

1. 婚活、就活からみえる 現代社会の問題

はじめに
二つの格言

希望は努力が報われると感じるときに生じ、
努力が無駄になると思えば絶望が生じる

(ランドルフ・ネッセー 社会心理学者)

人がうまくできなくてはならないこと
働くことと、愛すること

(ジグムント・フロイト 精神分析学の祖)

1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

21世紀の日本社会

「働くこと」「愛すること」がうまくいかなくなってきた

若い人 新卒で正社員になれない人が激増
(若年非正規雇用率15-24歳 男性42%、女性52%)

未婚者 結婚したくてもできない人が激増
(30代前半 男性47.1%、女性34.4%未婚 2015年)

* 本人の責任ではない。 これが社会学的見方

1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

「一活」という言葉の氾濫

一昔前は、意識しなくても自動的に達成できていた人生のイベント（結婚、就職、妊娠、終末）

現在、意識し努力しなければ達成できなくなる
婚活 — 一昔前、自然に出会い、周りから見合い
就活 — 一昔前、学校出れば自動的に正社員に

1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

* 希望格差社会

努力しても報われない人が「必ず」出てきてしまう社会
(努力して報われる人と報われない人に分裂)

* 全員が正社員で就職できるわけではない
非正規雇用率 約45%

* 全員が結婚し、離婚しないではない
生涯未婚率約25%、離婚確率約35%

* 努力しなければ就職、結婚できないし、努力しても
就職、結婚できるとは限らない社会に生きている若者

1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

* 社会の大きな変化によって、将来の職業生活、
家族生活の見通しがつかなくなっている

* その結果、希望を失う若者－中年が増えている

①「就活」「婚活」に一所懸命になるよう追い込まれる人が
沢山でてくる

② 一所懸命に活動しても、就職に失敗する人、結婚
できない人がでてきて、努力が無駄になったと思う人が
沢山出てくる。

③ はなから就職、結婚を諦める人たちが沢山出てくる

1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

* 社会の変化によりもたらされた「生きづらさ」

①「就活」「婚活」に追い込まれる

就活、婚活疲れ 「どこまですればよいの」

②（正規雇用）就職失敗、結婚に失敗する

絶望感 「努力が無駄になった」

③（正規雇用）就職、結婚への諦め

将来不安 「将来どうして暮らしていけばよいの」

* これらの若者（中年）にどう向き合うか

1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

* グローバル化がもたらした社会問題

1990年代後半 社会の基本的あり方が変化

様々な社会問題が噴出

- ✓ 自殺急増 児童虐待、強制わいせつ、セクハラ、少年凶悪犯罪、自己破産、出来ちゃった婚、離婚、ひきこもり、フリーター、ニート などの増大
- ✓ 少子化の深刻化が顕著になる(図表)

1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

* 80－50(70－40)問題 アラフォークライシス

現在45歳前後の人々(1975年生まれ前後)

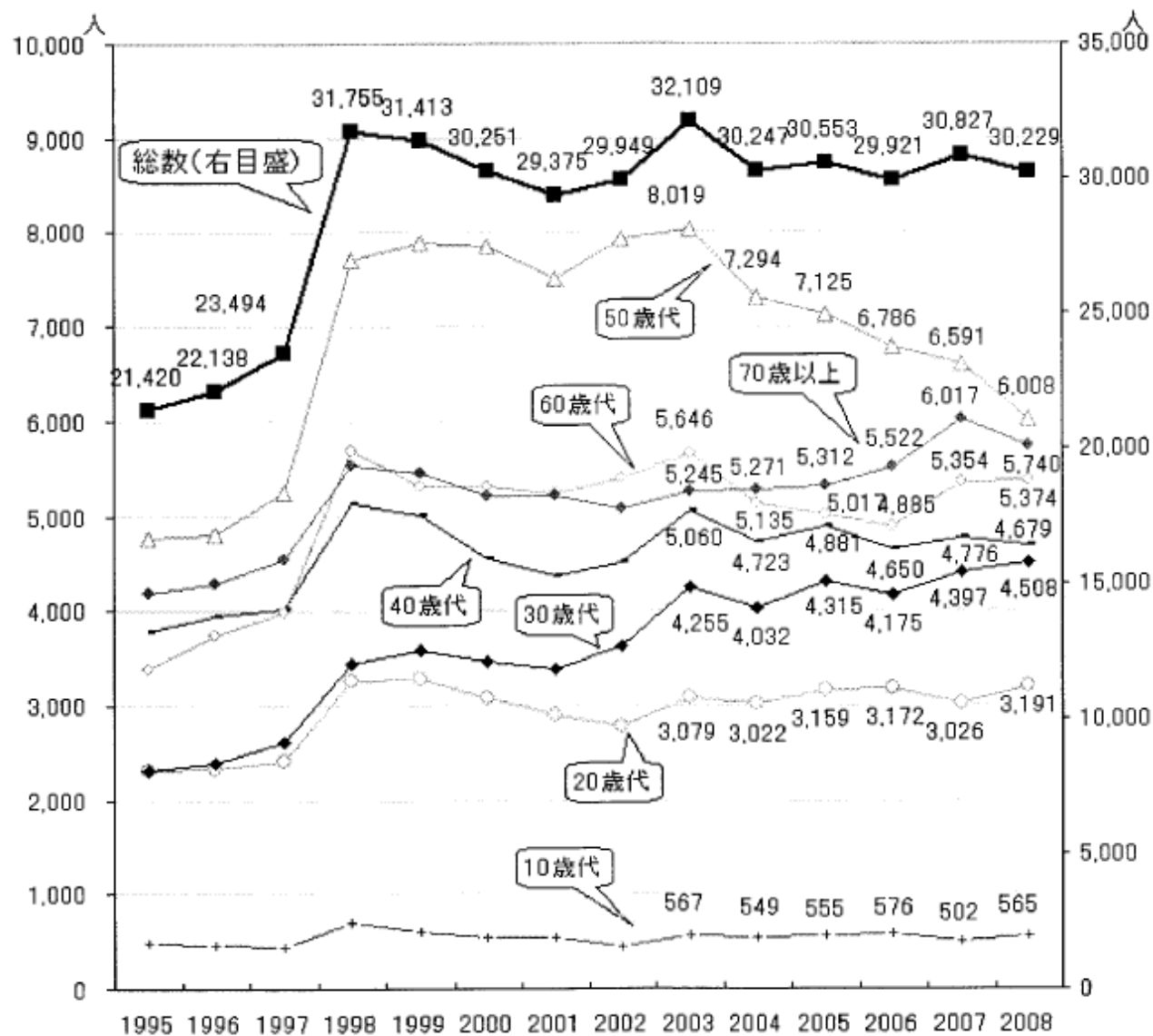
このグローバル化の影響を受けた最初の世代

(1990年後半に就職、結婚を迎える)

- ① それ以前の人とのギャップが大きい
- ② 根本的な対応策がとられなかった

当時の多くの若者は、将来正社員になり、結婚できると信じていた。しかしできなかった人がでてくる

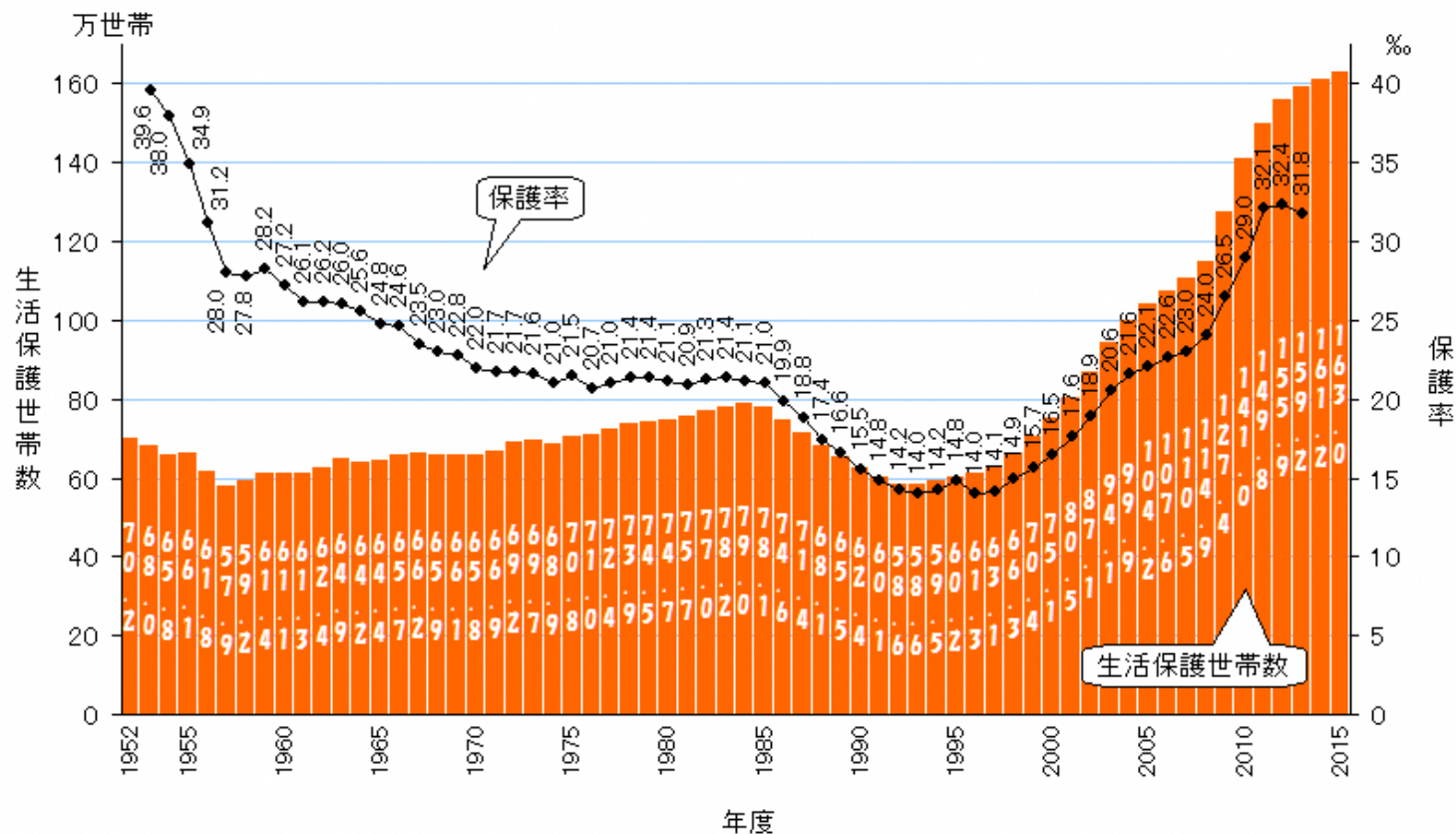
年齢別自殺者数の年次推移



(ちょうど、1975年生まれ以降の子育て期に急増)



生活保護世帯数と保護率の推移

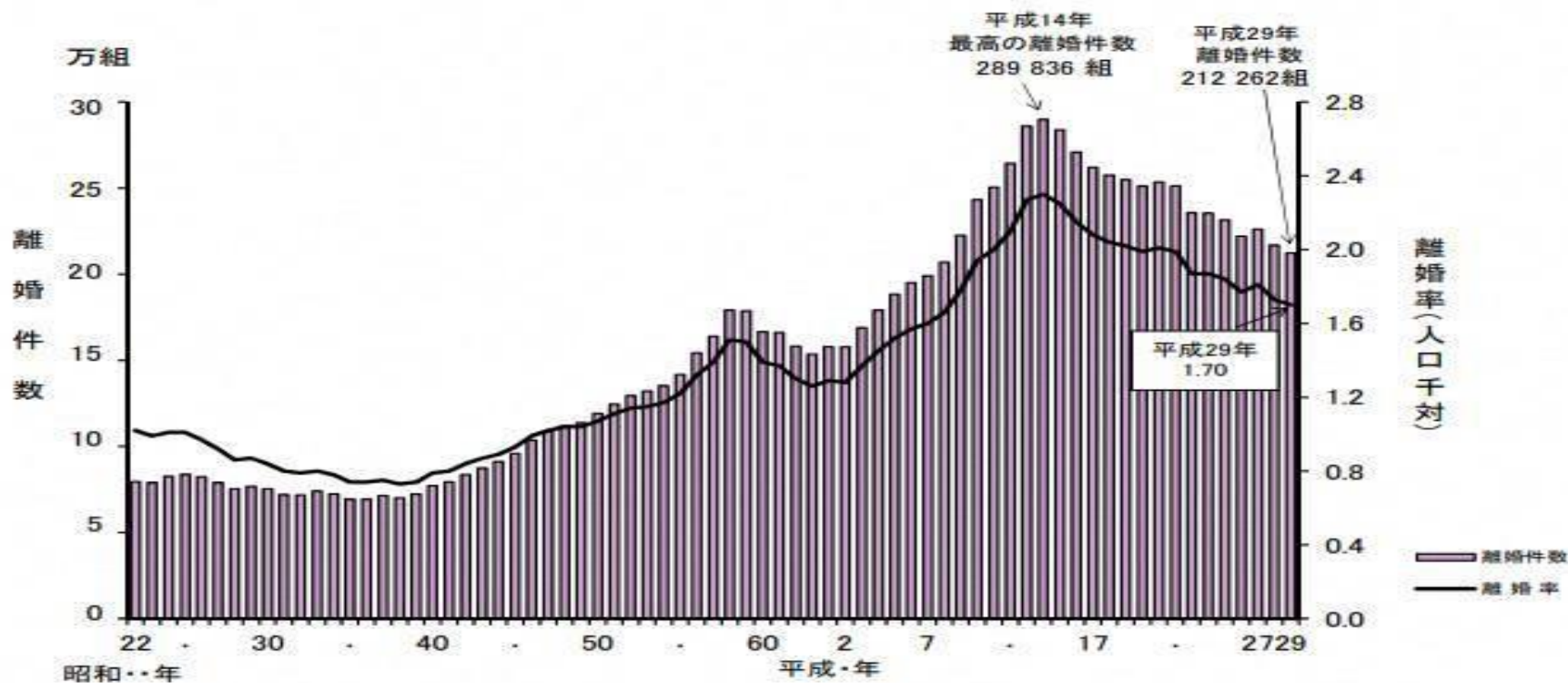


(注) 年度の1か月平均。保護率は社会保障・人口問題研究所「生活保護」公的統計データ一覧」。2015年度は概数
 (資料) 厚生労働省「被保護者調査」(前「社会福祉行政業務報告(福祉行政報告例)」)

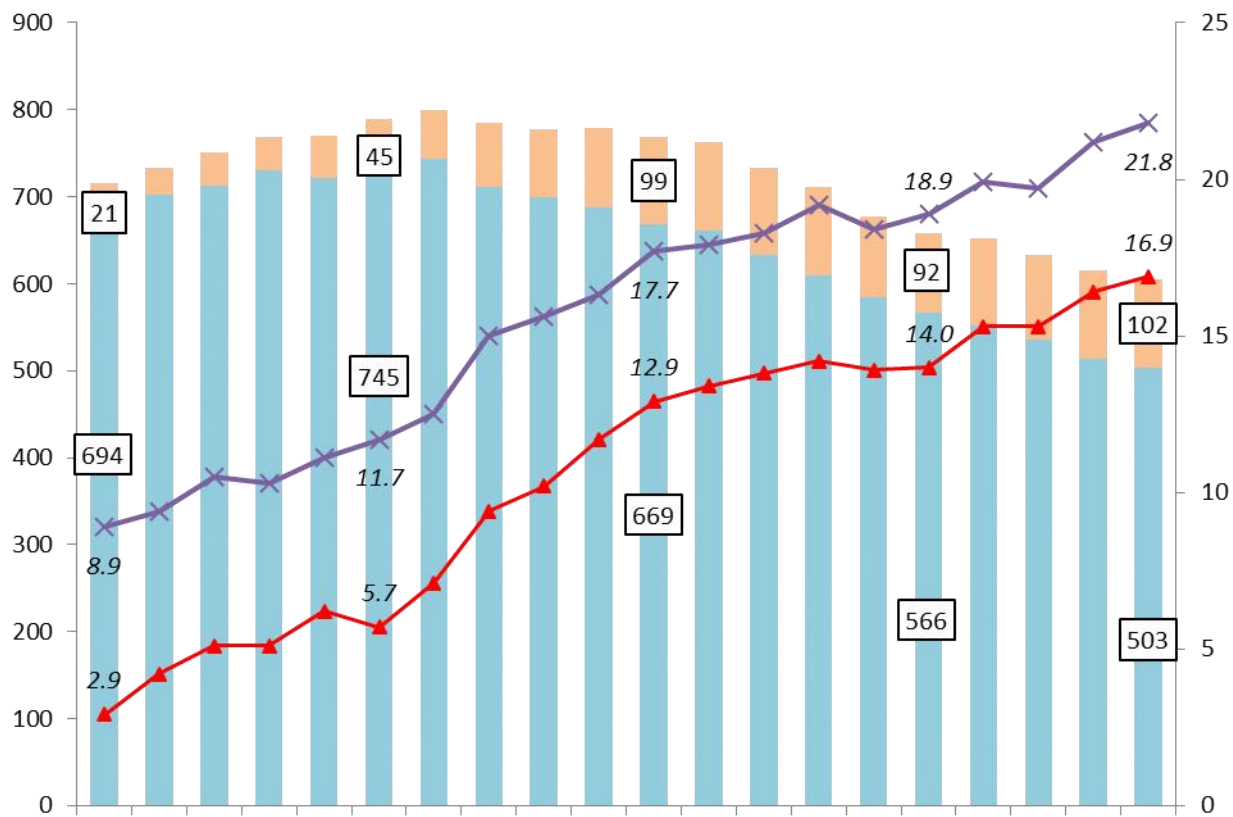
2. 現代家族に生じていること

- （離婚数は減少、しかし、対結婚数率は高止まり）

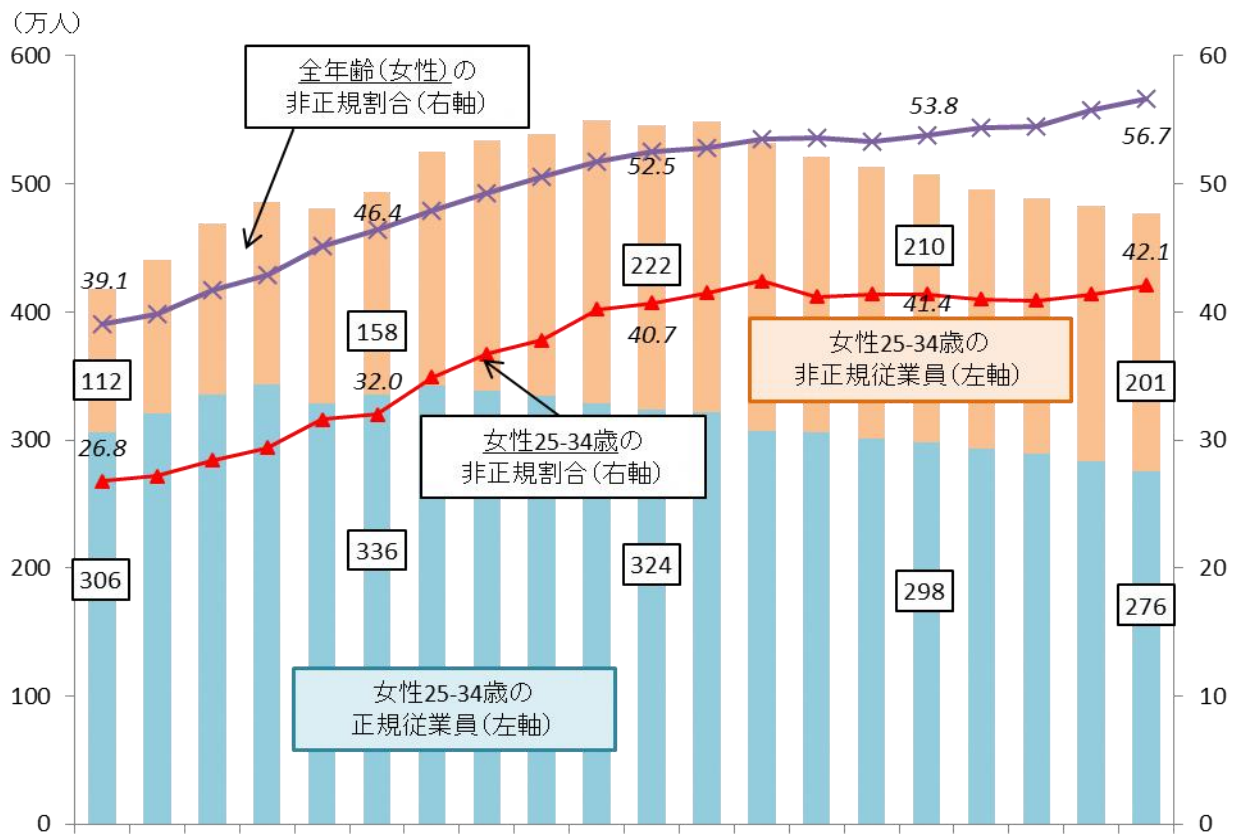
図 11 離婚件数及び離婚率の年次推移



「雇用者」のうち正規・非正規雇用者数の推移
 【男性25-34歳】1995-2014



「雇用者」のうち正規・非正規雇用者数の推移 【女性25-34歳】 1995-2014



1. 「婚活」「就活」からみえる現代社会の問題

日本社会の歴史的変化

I 農業社会（自営業中心）

— 一家総出で働いた社会

II 工業社会（企業社会）

— 性別役割分業（男性は企業で雇用
女性は家事・育児）

III ニューエコノミー（情報化、グローバル化）

多様な雇用、多様な家族

2. 80-50問題の背景要因

戦後の性別役割分業家族が

うまくいったわけ

(戦後ー1990年頃まで)

2. 80—50問題の背景要因

* 戦後—1990年頃まで

「サラリーマン—専業主婦」家族（性別役割分業家族）

➤ 男性： 希望すれば学卒後正社員になれ、
収入は安定して上昇していった

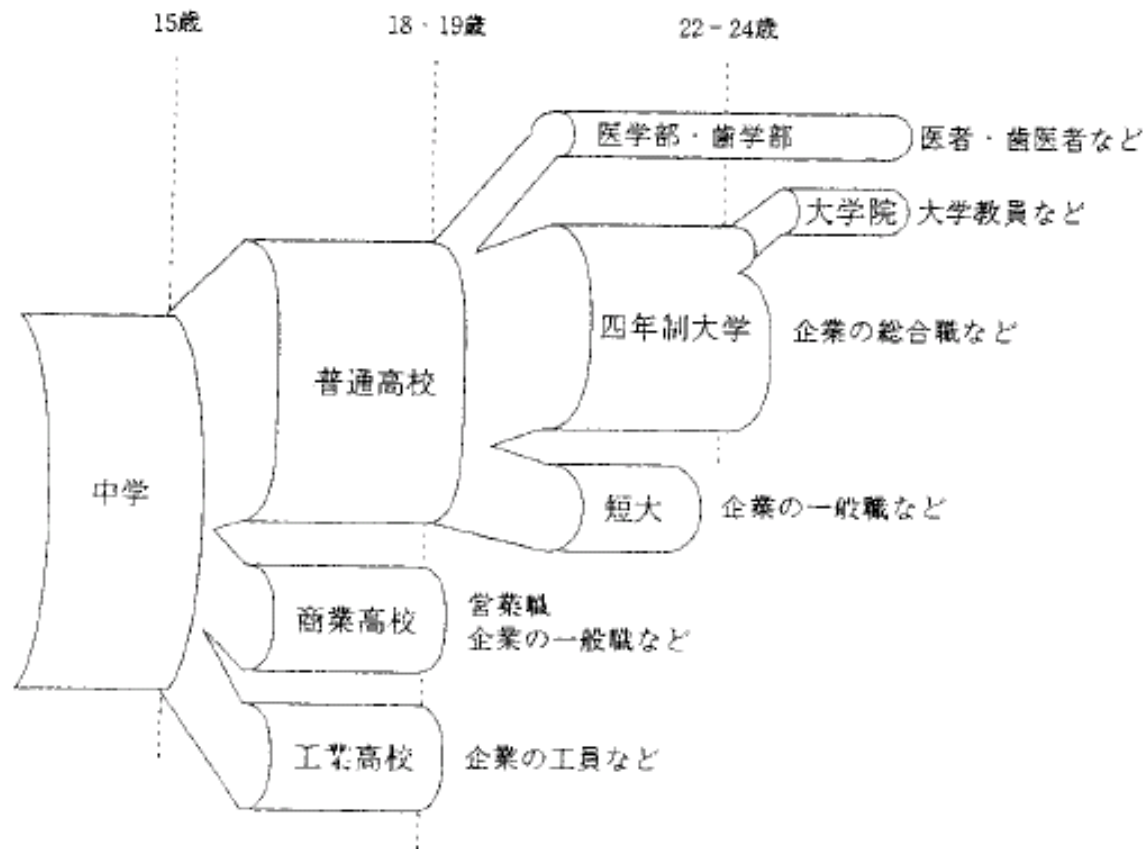
➤ 女性： 希望すれば正社員と結婚できた

* ほとんどの若者が、「夫は仕事、妻は家事で、豊かな生活をきづく」見通しがもてた = 希望

* システムが人生の希望を保証していた

パイプラインシステム —学校が想定する職に望めば就けた—

図表 4-5 パイプライン・システムの概念図



2. 80－50問題の背景要因

- ▶ パイプラインシステム

学校に入り、卒業するという努力をすれば定職に就けた
(中卒でも、高卒でも、大卒でも)

- ▶ 企業に入れば、On the job trainingで、能力アップ、昇進が期待出来た(男性限定)

- ▶ 男性は、安定した雇用、収入は増大することが期待できた

*** 就活という言葉はなかった。**

2. 80－50問題の背景要因 高度成長期(1955－1972)

高度成長期－戦後家族モデル うまくいった (性別役割分業型家族)

- * 「夫は主に仕事、妻は主に家事で、豊かな生活をめざす」(住宅、家電製品、子の学歴)
- ・ 前提1 夫の収入が安定しており、上がり続ける見通し(男性は全員可能)
- ・ 前提2 ほとんどの女性が正社員と結婚できた

2. 80—50問題の背景要因 低成長期

低成長期

夫の収入の伸びが鈍る(1973—1995)

- ・ 晩婚化 男性の収入が高くなるまで待つ
(パラサイト・シングル化)
- ・ 女性のパート労働者化 収入の伸びを補う

「豊かな生活をめざす性役割分業の家族」
の基本は崩さず、微修正の時代

2. 80—50問題の背景要因 1990年前後

パラサイトシングルの発生

- ① 結婚して親以上の生活をしたい
- ② それに見合う収入の見通しがない
男性—自分の収入では、足りない
女性—収入が高い人に出会えない
- ③ 親と同居して(楽しみながら)待つ
男性—収入が高くなるまで
女性—収入が高い人と出会うまで

3. 格差社会と少子化の進展

ニューエコノミーがもたらしたものの
(1990年代後半以降)

3. 格差社会と少子化の進展

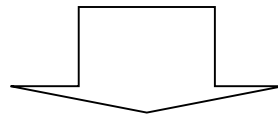
ニューエコノミーがもたらしたもの(1995ー)

ニューエコノミーの時代

1989年 ベルリンの壁崩壊

1991年 ソビエト連邦解体

1997年 アジア金融危機



1990年中頃から 日本でも新しい経済の影響が広がる
IT化、グローバル化、サービス産業化、知識産業、文化産業

3. 格差社会と少子化の進展

ニューエコノミーがもたらしたもの(1995ー)

職の二極化の進行

(機械やパソコンにできない仕事)

「クリエイティブな職」と、「誰にでもできる職」

への分解

女性も活躍できる職に就けるが、

男性の雇用が不安定

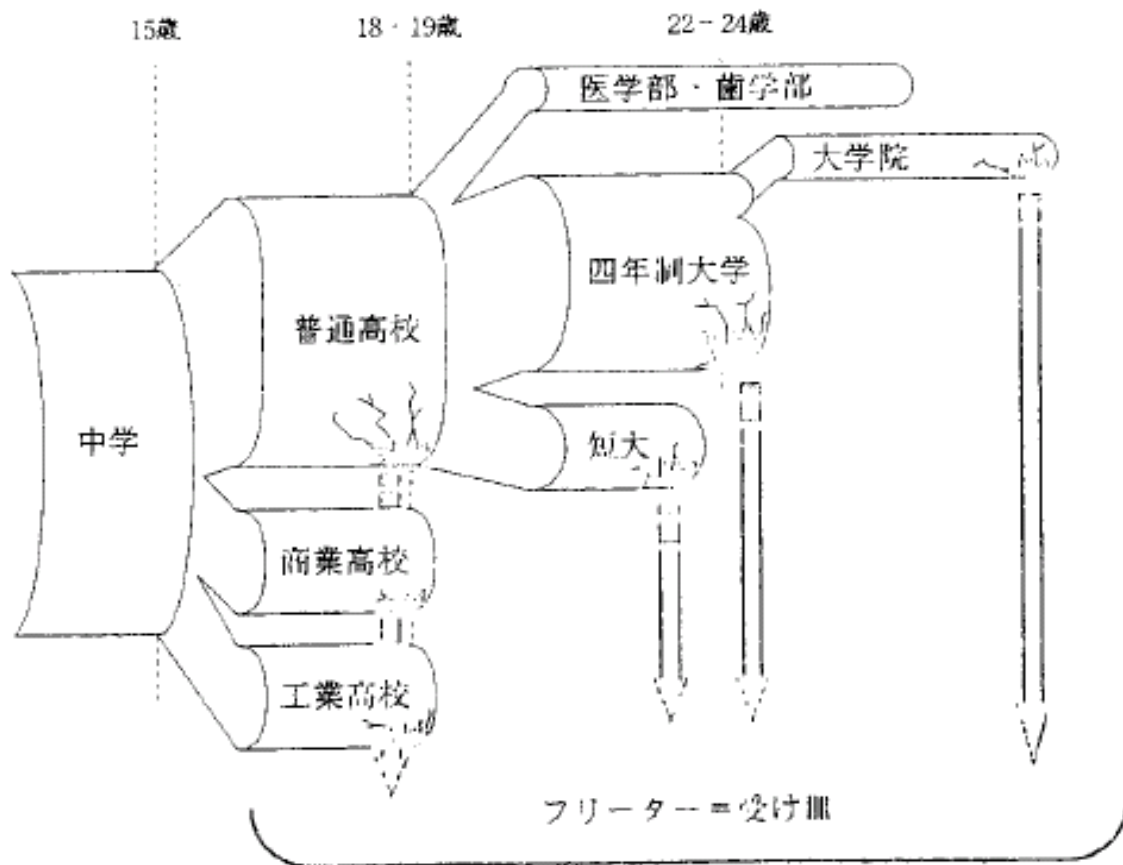
3. 格差社会と少子化の進展

ニューエコノミーがもたらしたもの(1995ー)

- 企業 誰にでも出来る仕事を正社員で雇わない
- 非正規雇用(フリーター、派遣、契約社員)になるものが、若者で増大
- 日本 新卒一括採用、終身雇用・原則
一度非正規になるとなかなか抜け出せない
非正規雇用者 ー 仕事には希望がもてない

パイプラインの漏れ

図表 7-1 パイプラインからの漏れ



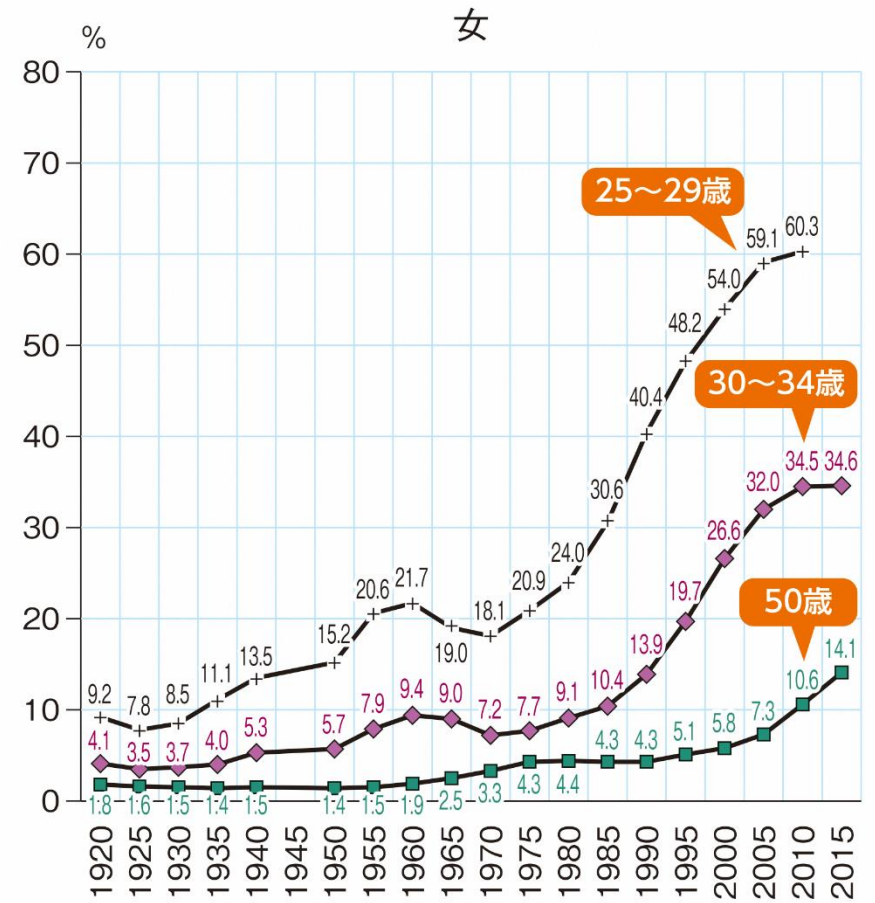
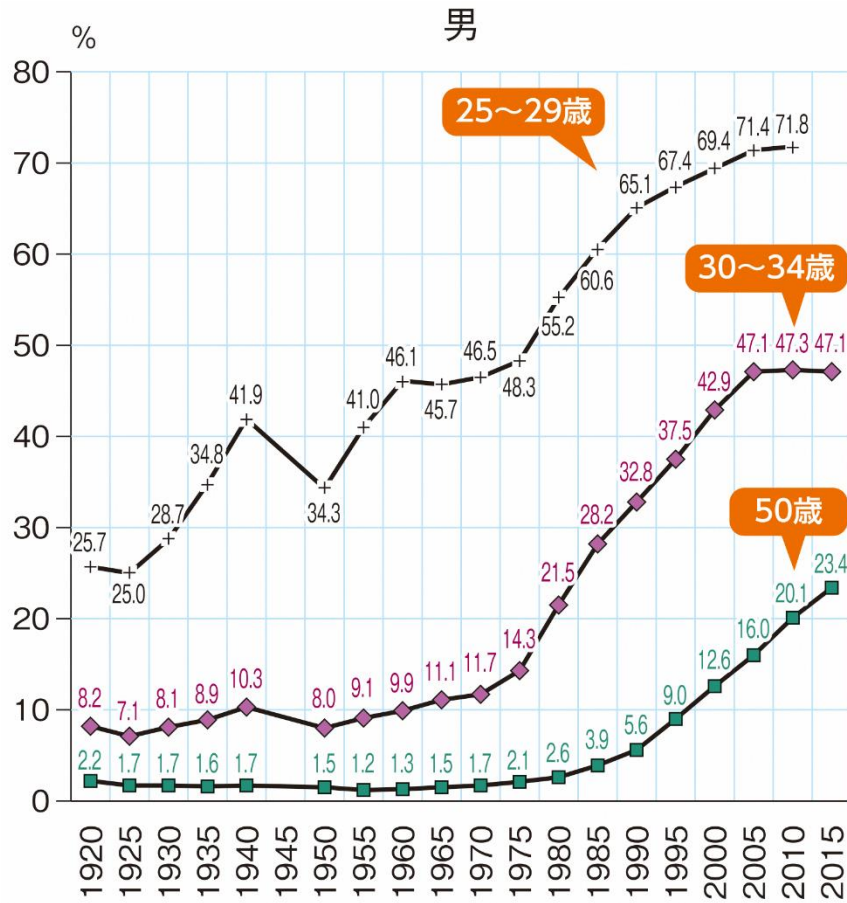
3. 格差社会と少子化の進展

ニューエコノミーがもたらしたもの(1995ー)

* 学校卒業が定職の保証ではなくなる

- 高校を出ても、安定した収入の正社員になれない人が増える
- 大学を出ても、「必ずしも」ホワイトカラーや技術専門職に就けなくなる
- 定職に就ける人とつけない人の格差が広がる
(日本 — 新卒一括採用、終身雇用が原則)

図 未婚率の推移 結婚できる人とできない人に分裂



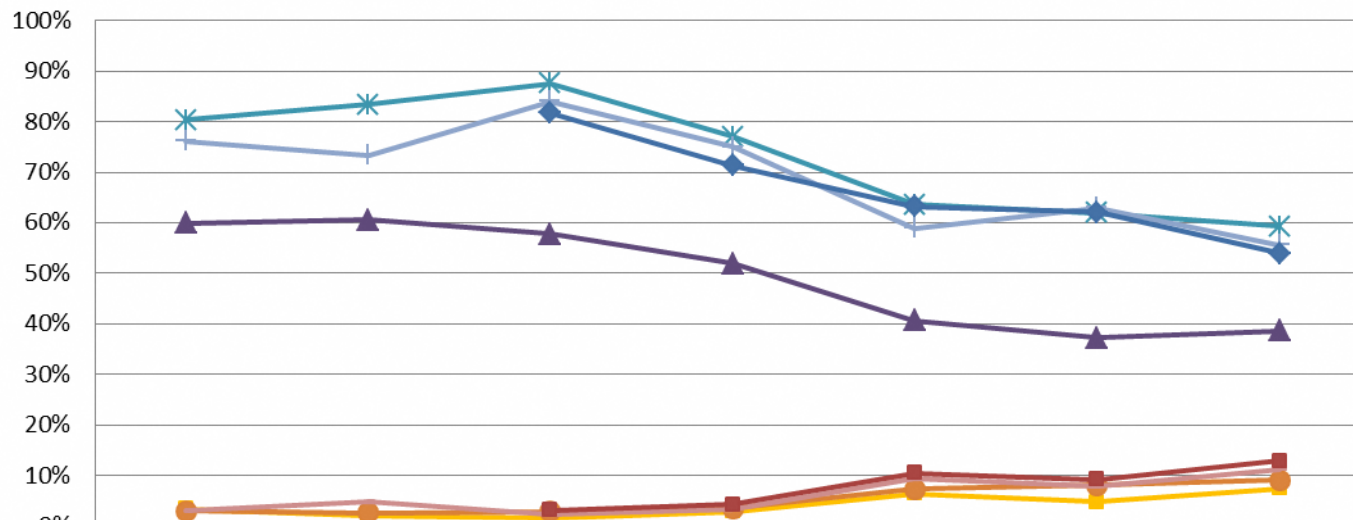
3. 格差社会と少子化の進展

少子化の深刻化(人口減少、未婚社会、無縁社会)

- ✓ 原因 「男性一人の収入では妻子の豊かな生活を支える見通しが立たない」
- ✓ 固定的役割分担意識やそれを前提とした制度にこだわる男性と女性結婚しにくい
 - 男性未婚者の正社員率激減
 - 女性のプロ主婦志向未だ強い
 - 結婚して主婦になりたいたくても、相手がいない(図表)

図 悪化する若年未婚者の雇用 1/2

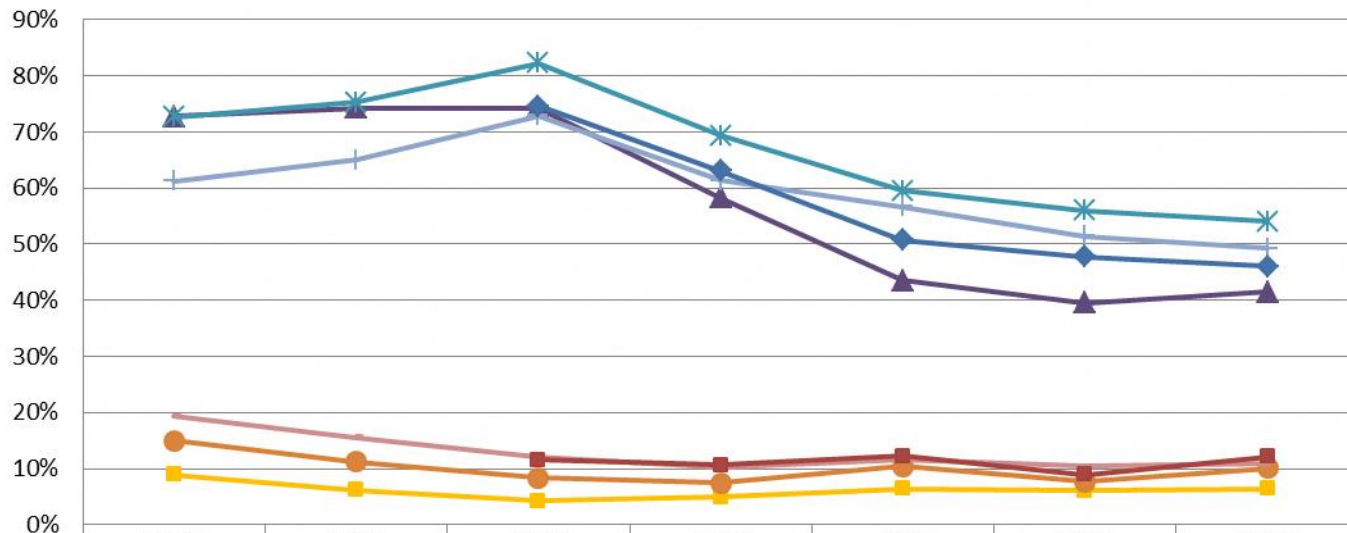
未婚者の正社員率・無職率（男性）



	1982	1987	1992	1997	2002	2005	2010
正社員(20～24歳)	59.9%	60.5%	57.8%	51.9%	40.6%	37.2%	38.6%
正社員(25～29歳)	80.3%	83.4%	87.6%	77.0%	63.6%	61.9%	59.3%
正社員(30～34歳)	76.2%	73.4%	84.0%	75.0%	58.9%	63.0%	55.6%
正社員(35～39歳)			81.8%	71.4%	63.2%	62.1%	54.0%
無職・家事(20～24歳)	3.4%	2.0%	1.6%	2.8%	6.4%	4.8%	7.4%
無職・家事(25～29歳)	3.0%	2.6%	2.9%	3.5%	7.3%	8.0%	9.1%
無職・家事(30～34歳)	3.0%	4.8%	2.4%	3.2%	9.4%	7.9%	11.2%
無職・家事(35～39歳)			3.1%	4.2%	10.5%	9.2%	12.9%

図 悪化する若年未婚者の雇用 2/2

未婚者の正社員率・無職率（女性）



	1982	1987	1992	1997	2002	2005	2010
正社員(20～24歳)	72.8%	74.3%	74.3%	58.3%	43.5%	39.5%	41.5%
正社員(25～29歳)	72.7%	75.3%	82.3%	69.4%	59.5%	56.0%	54.1%
正社員(30～34歳)	61.2%	65.0%	72.9%	61.3%	56.7%	51.4%	49.3%
正社員(35～39歳)			74.6%	63.1%	50.7%	47.8%	46.1%
無職・家事(20～24歳)	9.0%	6.2%	4.3%	5.0%	6.5%	6.1%	6.5%
無職・家事(25～29歳)	15.0%	11.2%	8.4%	7.5%	10.4%	7.7%	10.1%
無職・家事(30～34歳)	19.4%	15.6%	12.1%	10.2%	11.7%	10.4%	11.0%
無職・家事(35～39歳)			11.6%	10.7%	12.3%	9.0%	12.2%

4. 格差社会の将来

4. 格差社会の将来

- * 定職に就けない、家族が形成できない「リスク」の高まり
- ✓ 仕事の不安定化、格差拡大
 - 大卒の三分の一、高卒の二分の一が、
 - みなが昔のような定職につけない(非正規、離職)
- ✓ 家族の不安定化、格差拡大
 - 25%が一生未婚、25%が一度は離婚
 - みなが昔のように安定した家族生活は送れない

4. 格差社会の将来

* 仕事格差、家族格差 希望格差時代の到来

○従来型家族を形成できる若者 希望がもてる

正社員男性と結婚して、豊かな家族生活が築ける

○従来型家族を形成できない若者 希望がもてない

非正規雇用の男性、正社員と結婚できなかった女性など

* 将来生活に希望がもてない

現実が努力しても報われない生活を続けている

4. 格差社会の将来

* 定職に就けない、家族が形成できないリスクの増大
二つの反応

① 保守化する若者 — 就活、婚活

なんとか、定職、結婚(女性)を実現しようとする

② 虚構(夢)の世界に救いを求める

親に生活を支えて貰いながら、夢の世界に逃避する

4. 格差社会の将来

①保守化する若者

なんとか、定職、結婚にこぎ着けようとする

就活 定職に就くことだけを目的

(公務員志向、安定企業志向)

婚活(女性) 正社員、公務員と結婚すること

だけを目的

4. 格差社会の将来

就活や婚活の限界

就活の限界 正社員の椅子の数 増えない

婚活の限界 安定収入の男性 増えない

* 努力してもうまくいかない人がたくさんで
てくる

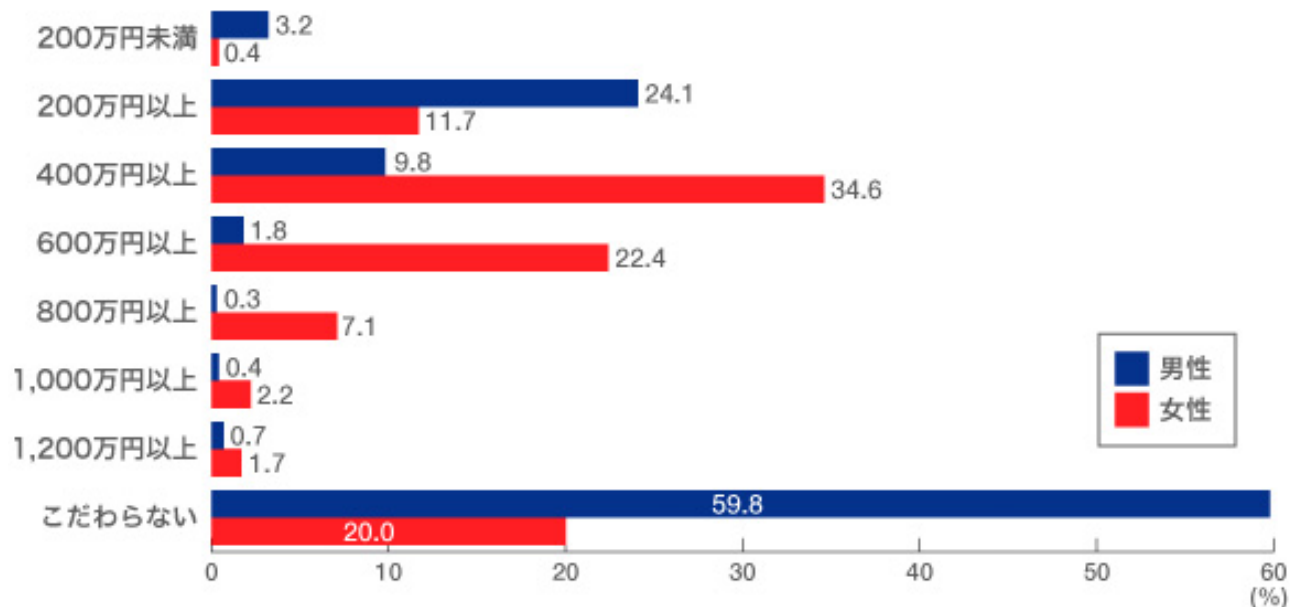
* たとえ、成功しても、持続するかどうかわ
からない(失業、離婚)

4. 格差社会の将来

婚活の限界

結婚相手に望む年収と現実の未婚男性の年収の比較

結婚相手に望む年収



現実の未婚男性の年収



出所：明治安田生活福祉研究所・「生活福祉研究」号。データは2009年の「結婚に関する調査」（全国ネット20～39歳、4120名の未婚者が回答）

4. 格差社会の将来

クリントン元大統領 演説

過去は過去、過去を追い求めると未来を失う

ただ、未来が明るいとは限らないから、

過去にしがみつきたくなる

- もはや全男性が終身雇用の正社員になること
全女性が正社員と結婚することは無理
- なれるかもしれないから努力せざるをえない

4. 格差社会の将来

②虚構(夢)の世界に救いを求める若者

「非正規雇用のままでは希望がない」(主に男性)

「未婚のままでは希望がない」(主に女性)

リアルな世界では、希望をもてない若者たち

* 努力して報われる、親密な相手を得られる虚構の世界に足を踏み入れる。

4. 格差社会の将来

②虚構(夢)の世界に救いを求める独身者

バーチャルな仕事

* 夢のような仕事をめざす(俳優、アート系)

(夢に浸る、成功した自分を夢想)

* ゲーム、パチンコの世界

(努力が報われる疑似体験)

4. 格差社会の将来

②虚構(夢)の世界に救いを求める若者

バーチャル家族 1

親密感情の充足

① 同居の親(独身者の8割は親同居)

と親密な関係(寂しくない、自分を大切にしてくれる人はい
る)

② 同性の友人たち(恋人がいない友人同士で楽しい時
間を過ごす)

③ ペット

4. 格差社会の将来

②虚構(夢)の世界に救いを求める独身者

バーチャル家族 2

ロマンティック感情、性欲の充足

① バーチャルな恋愛での充足

女性 アイドルスターの追っかけ、やおい(腐女子)

男性 AKB(握手できる)、恋愛パソコンゲーム

ネット恋愛、アニメ「萌え」

② 一時的な関係を買う

メイドカフェ JK散歩、キャバクラ、性風俗(主に男性)

(面倒がない、確実にOKが貰える、大切にされる)

4. 格差社会の将来 若年者のパラドックス

(図表) 生活に満足している人の割合(%)
→ 生活満足度高い若年世代

	18-29	30代	40代	50代	60代	70代以上
女性	84.8	75.2	70.4	67.5	70.4	69.6
男性	82.7	70.7	63.9	64.7	68.1	69.2

(内閣府国民生活に関する世論調査 2016年8月)

4. 格差社会の将来

- * 虚構(夢)の世界に救いを求めても
現在はずとりあえず、生活可能
夢(経済的成功や正社員との結婚)が叶う
確率は小さい
アンダークラスに転落する可能性と隣り合
わせ

4. 格差社会の将来

* 80－50(70－40)問題の発生 アラフォー・クライシス

■ 中高年未婚者の増加

2015年の国勢調査

35－44歳の家族状況

未婚

既婚

離死別

男性	284万人(32.5%)	561万人(63.5%)	38万人
----	--------------	--------------	------

女性	187万人(21.1%)	620万人(70.8%)	68万人
----	--------------	--------------	------

中年親同居未婚者の実態

- 中年親同居未婚者 西文彦(統計研修所)の推計
2015年 308万人 男性 182万人 女性 126万人
(非親同居未婚) (102万人) (61万人)
- 失業者、無業者 8.3% 非正規雇用 約二割
親に生活を依存している人 (推計)52万人
- 中高年(45-54)親同居未婚者 157万人(2015年)

4. 格差社会の将来

《現在、中高年親同居未婚者が急増》

男性－経済不安定だから結婚できない

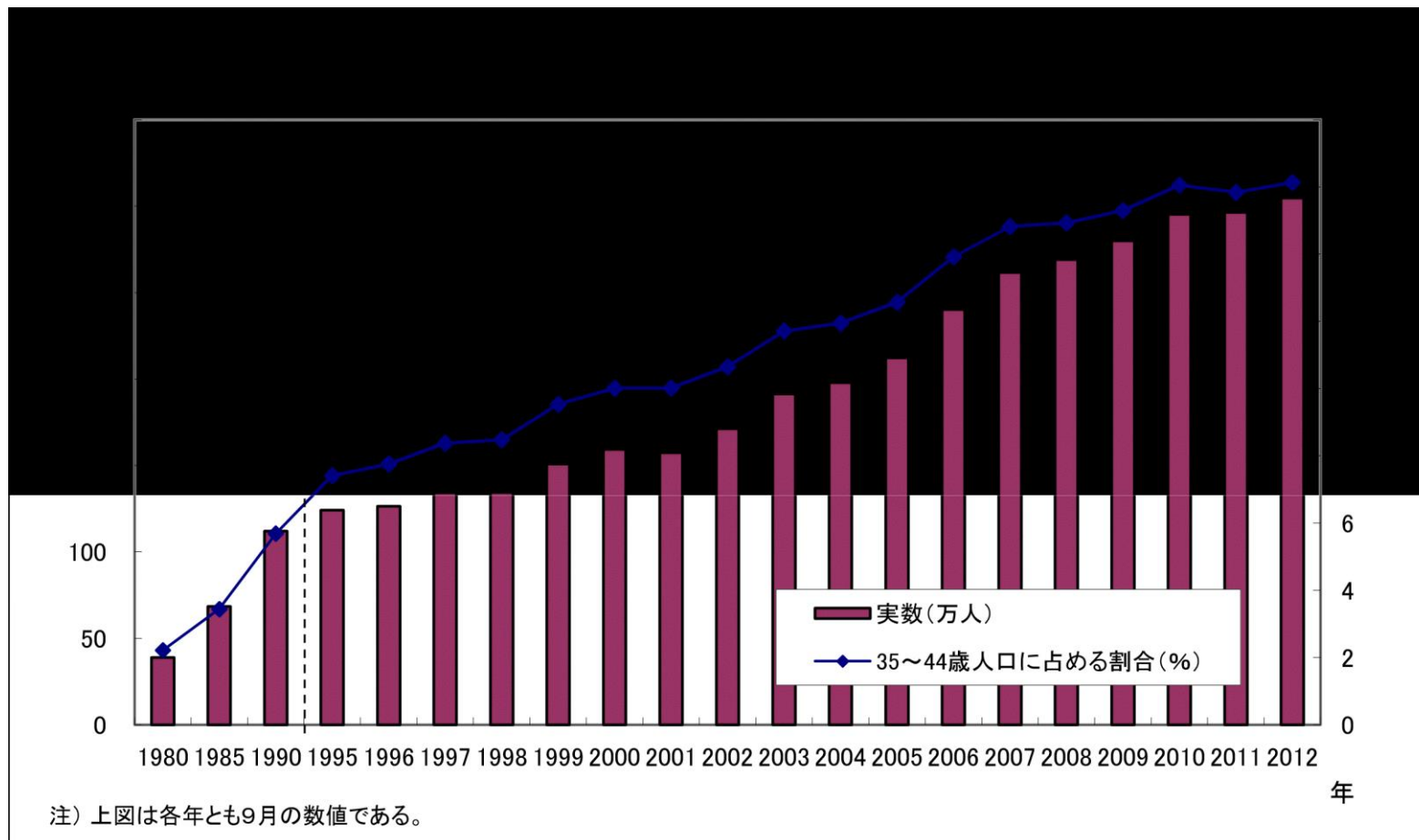
女性－女性差別－正社員が少ないから

* 親の年金に依存する中年独身者増大

親と自分の収入を合わせてやっと生活できる

* 高齢者虐待の温床 － 世話する立場に立てない

4. 格差社会の将来 壮年親同居未婚者の増大



4. 格差社会の将来

* 中高年親同居未婚者の規模

これだけの規模で、中高年親同居未婚者が存在する社会はいままでなかった。

■ 生涯未婚者の処遇(経済的、ケアの)

* **前近代社会** 親族(きょうだい、甥姪)が世話、**宗**
教施設収容(寺、修道院) **社会がなんとかした**

* **近代社会** 福祉施設収容(老人ホーム)、**放置**
自己責任とされる

(極めて少数だから問題として取り上げられなかった)

4. 格差社会の将来

《中高年親同居未婚者の将来》

現在、無縁死（孤立死）年3万程度

（80歳の生涯未婚率に相当）

家族がなくて、高齢を迎える人の増大

無縁死 2040年には、年30万人以上になる

（1960年生まれ、生涯未婚率20%とする）

5. 希望格差社会への対処？

5. 希望格差社会への対処

* 社会の変化によりもたらされた「生きづらさ」

- ①「就活」「婚活」に追い込まれ、就活・婚活疲れ
休めとも言えない
- ②（正規雇用）就職失敗、結婚に失敗し、絶望
次があるよ、しなくても大丈夫とも言えない
- ③（正規雇用）就職、結婚への諦め、虚構に浸る
将来大丈夫だと言えない、リアルに戻れとも言えない

* 社会制度を根本的に変えることが必要に

5. 希望格差社会への対処？ 人生案内相談者として、教育者として

* 読売新聞『人生案内』の回答者

最近増えている相談

① 息子や娘がなかなか正社員になれない、結婚できない、(時には孫の相談も)

② 夢(結婚含む)を追いたいが、安定もしたい

* 社会制度を批判しても、相談者が幸せになるわけではない

* 制度が変わるまで待てない

6. コロナ後の家族 結婚。出産は？

■ 今年前半の傾向

* 結婚は大きく減少 昨年は令和婚（5月1日）、並び婚（11月11日）で増
今年 1-6月の結婚数大幅減少（2並び婚-令和2年2月2日は多かったが）
2020年前半 270129組 2019年前半 316628組 2018年前半
299450組

* 出産減少（昨年8月の決定） コロナの影響が出るのは来年1月以降
現在減少中 今年から来年の前半 大きく減少しそう
2020年前半 430709人 2019年前半 439533人 2018年前半
468231人

厚労省調査 今年の4月以降、妊娠届け出数減少している

* 離婚も減少

調停や裁判が非常事態宣言で延期された？
離婚している経済的余裕がない？

6. コロナ後の家族・社会

■コロナ禍が浮き彫りにしたもの

格差社会が目に見える形で明らかになった

日本社会 — 先進国の中で、貧困率が高いのにも関わらず、それがなかなか目に見えにくい社会

コロナ禍により、不利な人がますます不利に

非正規雇用者やフリーランス（自営業者）の生活リスクを現実のものにした。

（特に、接客に従事している女性）

コロナ禍 今ある格差が目に見えるものに

逆に、対策の好機でもある。

7. 処方箋はあるのか 社会的変革の必要性 雇用構造の大胆な改革が必要

- 正社員になれば安全、そうでなければ不安定、
という構造自体を変える
- 新卒一括採用の廃止、 正社員・非正社員・自営業の
待遇格差を是正
- 新卒で正社員にならなくても、安心して暮らせ、
再チャレンジできる環境
- 若者は、自由に自分の能力を開花させる機会をもてる

7. 処方箋はあるのか 家族のあり方・社会保障の大胆な改革が必要

- 正社員と主婦という標準家族を作れば安全、そうでなければ不安定という構造自体を変える必要がある
- 女性を活用しなければ、経済や家族がもたない
- 共働きを促進し、子育てを社会化する
- どんな家族形態でも安心できる社会保障制度に
- 新しい家族のあり方を支援する
- 中高年の婚活支援

7. 処方箋はあるのか

自治体の対策の方向性 生活支援と孤立対策が必要

➤ 生活支援

どんな家族形態でも、ある程度の暮らし、ケアを受けることを可能に

➤ 孤立化対策

居場所作り 特に男性は孤立しやすい

7. 処方箋はあるのか 個人的な対応 仕事編

➤「希望」がもてる仕事を探す

少しでもステップアップできる仕事を見つける

とにかく少しでもよいから仕事能力をつける

介護の資格をとる、コミュニケーションの練習 — — —

それを家族で応援する

年金はかけておく

7処方箋はあるのか

個人的対応 家族編

- 女性 — 高収入の男性と結婚できるというのは無理
自分でもある程度稼ぐ力をもつ
 - 男性 — 黙っていれば結婚できるというのは無理
家事・育児を半分するからという位のスタンスで
コミュニケーションを磨く
- * いい人がいれば、条件に合わなくても付き合ってみる
(結婚支援センターを利用してみる)

7. 処方箋はあるのか 教育者の悩み

- * 現在、教育者として、学生を教えている。
現実がすぐに変わるわけではない
- * 教育者－「リスク社会」に若い人を旅立たせる
生徒、学生に、「リスクをとって夢を追え」とも「夢を
諦めろ」とも言いにくい。
リスクに陥る生徒、学生が必ず出てくる。
(定職に就けない、結婚できない)
その時に、乗り切る力をつけさせる必要

7. 処方箋はあるのか 希望格差社会への対処？

- ユング 「心理臨床の目的は、患者をあり得ない幸せの状態にするのではなく、苦しみに耐える力を身につけさせることにある」
- 「社会学の目的は、人や社会をあり得ない幸せな状態にするのを約束するのではなく、社会的運命に負けない強さを身につけさせることにある」

ご清聴ありがとうございました

